

TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックを振り返る意見交換会が開かれました。

2021年9月4日、「東京2020オリンピック・パラリンピックを開催した意義、成果、そして課題」をテーマとしたオンライン意見交換会が開かれた。参加人数は、協会会員を中心とした10名で、長谷川理事長がモデレーターとなって活発な意見交換が行われた。オリンピックとパラリンピックを振り返ってみて、大多数の参加者は、様々な問題があったが、全体としては、やはり開催してよかったのではないかという意見だった。

今回のオリンピック・パラリンピックをめぐっての問題点や批判はあまりにも多いが、主な点だけでも次のことが指摘できる。まず政治面では、オリンピックは結局のところホスト国の政治的思惑によって開催されているわけだが、TOKYO2020の場合、歴代の政権が意図していた政治的目的はどれも達成できなかったといえる。すなわち、東日本大震災からの復興を遂げた日本を世界に示すこともできず、コロナに打ち勝った証としてのオリンピックにもならず、今の政権を浮揚させることにも全くつながらなかった。経済的には、IOCのみならず大手テレビ局やスポンサー企業も、経済的利益を得るためにオリンピックを企画し、協力しているともいえるが、これも今回の大会では、多くの企業にとって失敗だったといえる。もっとも、IOCは必ずしも経済的理由でオリンピックを運営しているわけではなく、経済的利益も発展途上国のスポーツ振興に役立てているとの意見もあった。日本政府は、オリンピックを誘致した際の当初予算と比較して莫大な支出をしたが、無観客で実施したこともあり、内需喚起にはほとんどつながらず、借金を増やしただけに終わったともいえる。また、マスコミの報道もメダル至上主義から抜け出すことができず、不必要にナショナリズムをあおったのではないか。

これらの多くの問題にもかかわらず、全体としては、開催してよかったと評価できる次のような点も指摘できる。まず、オリンピック憲章に掲げられている高邁な理想を再確認することができた。とくに、オリンピックのモットーである「より速く、より高く、より強く」に「共に」が追加された。このことは、難民選手団やLGBTの選手の受け入れなどに現れていた。また、選手による人権やジェンダー平等を訴える一定程度の政治的メッセージが受け入れられたことも評価できる。一部ではあったが、児童や生徒が障害者のスポーツを身近に観戦することができたことは、子供たちの人格形成に大きな影響を与えたと思われる。したがって、多様性と包摂性の促進という点では世界に向けたメッセージを発信できたといえる。さらには、これだけの困難な状況にもかかわらず、日本は2013年に国際的に約束をしたオリンピックを実施し、治安上の問題もおこらず整然とした大会運営ができたことは、日本の管理能力の高さと責任感の強さを世界に示したといえる。パンデミックの中でオリンピックとパラリンピックを開催し、世界各国に明るいニュースを届けたことは、オリンピッ

ク・パラリンピック史上のレガシーとして残り、後世、評価されるのではないか。また、経済的には、多大の損失があったことは間違いないが、それでも開催したことによる一定程度の経済効果はあったわけで、コロナ禍の厳しい状況にもかかわらず、恩恵を受けることができた一部の業界にとっては慈雨となったのではないか。

開会式や閉会式において日本らしさを世界にアピールできたかどうか、また無観客で行われたため日本人観客と選手の交流が全くなかったことや選手間の交流もほとんどなかったことについては、賛否両論がだされた。開会式と閉会式のパフォーマンスについての評価は、世代や国籍によっても異なるから簡単に結論を出すわけにはいかない。また、これと関連して、そもそもコロナ感染症を極めて危険な感染症とみなして厳しすぎる規制をかけたのではないかとの意見もでた。日本の感染者や死亡者は世界的には極めて少ない方だし、海外からのオリンピック関係者で新型コロナに感染して死亡したものも出なかった。これに対しては、こうした規制があるからこそ、日本の感染者数や死者数は比較的少なく収まっているのであり、普通のインフルエンザと同じ扱いにしたとたんに、他の国のような感染爆発が起こるだろうとの反論もあった。

少数意見として、やはりオリンピック・パラリンピックは開催すべきではなかったという意見もあった。すでに述べられているように今回のオリンピックが多くの問題を抱えていたことは以前より指摘され、中止する機会があったにもかかわらず、結局、開催ありきで突っ走ったのは、戦前の軍部と同じ発想ではなかったか。名著「失敗の本質」が指摘したように、「空気」によって支配され、誰も過ちを止められないまま、突き進んでしまったのではないかということである。また、オリンピックの開催と前後して、新型コロナ感染症の感染者数と重症者数が激増したことは事実であり、オリンピックと感染拡大の因果関係については、いまだにあったともなかったとも科学的に検証されていない。

今回の意見交換会は、何らかの意見の合意を目指したものではなく、さまざまな意見をぶつけ、オリンピック・パラリンピックの光と影を多角的に検討する目的で開かれた。その意味においては、参加者が皆、各々の意見を述べる機会があり、十分に意義のあるセミナーだったといえる。